



9月×日

9月。2学期がはじまった。というか、8月の最終週にはすでに2学期はじまっているんだけど…。なんでこんな暑い時に授業をしなくちゃならないんだろうと、いつも思う。でもまあいいや。どうせ2学期の最初は文化祭やし。

今日も生徒達は文化祭の準備をしている。中にはすでに舞台衣装を着ているヤツもいる。あれ？あのピンクのスカートはいてるヤツ、去年教えた…、男の子やんか（笑）。

* * *

最近、行事の精選という名目のもと、文化祭をしない学校もあると聞きます。でも、わたしの勤務校では熱く燃える文化祭がまだ健在です。3年生は体育館で演劇を行います。それへ向けて、2年生は小体育館で小演劇、1年生は中庭で仮装パフォーマンスを行います。

ところで、文化祭と言えば、昔から「女装」がつきものようです。準備期間中にも女装姿の男子生徒があちこちにいます。先日、他県の人権教育関係の友だちが「あれ、やめさせたいねん。今年度の研修でとりあげたいと思ってるねん」と言っていました。それに対して、わたしは「う~ん…」とあいまいな返事しか返せませんでした。どうも条件反射的に「女装→やめさせる」というふうに考えることに、なんとなく違和感があるからです。

とりあえず、先日あったわたしの勤務校の文化祭での「異性装」の実態調べてみると、次の表のようになりました。

	男装	女装
1年生（全8クラス）	2	4
2年生（全8クラス）	1	3
3年生（全8クラス）	2	2

ちょうど授業を持っている2年生のクラスが該当していたので、生徒に話を聞いてみました。

『ごくせん』のヤンクミ役をした男子生徒は、次のような話してくれました。「お前ならいけ

る」と言われた。自分でも“キレイになれる”と思ったのでやることにした。やっておもしろかった。その日はずっとヤンクミの恰好で過ごした。その日一日だけ人気者だった。次の日からは何もないでちょっとさびしかった（笑）。演出担当の生徒は「女がやっても普通の劇にしかならない。男がやったほうがヤンクミになるし、おもしろい」と言っていました。

「なぜ？」という問い合わせに対する「おもしろい」という答えの中に若干問題を感じないわけではないのですが、演出をした子も、演技をした子も、まわりの子らも、あっけらかんとした感じです。どちらかというと、日常とは違う空間を楽しんでいるという感じでしょうか。1年生のあるクラスでは、登場人物全員が異性装をしていました。「互いの服装を交換することで、互いの「性」の大変さを実感する」という理由でした。

こういう姿を見ていると、単に「いけない」と禁止をすることがいいのかどうか、わたしにはわからなくなっています。なぜなら、単なる「禁止」は「タブー」を生み出し、そこに不必要的意味づけがされていくような気もするからです。

ある教員に「女装をやめさせないといけないと意見があるんやけど」と言うと、「え～、なんで？ 別にええやん。もっともっとやつたらええと思う」と言っていました。この答えを聞いて、そうきたかと思いました。

「禁止」ではなく、もっとありふれたことにしていくという方向もありなのではないでしょうか。誰もが好きな服を自由に選び、そんな人々が街の中にあふれる社会であれば、女装の持つマイナスのイメージは、自ずとなくなっていくような気もします。

それでも、わたしの中にはきっと「女装」のマイナスイメージは存在し続けるのだろうとは思います。その理由は、また回をあらめて…。

（土肥いつき 高校教員）